

内視鏡透視室リニューアルのご紹介

岡山赤十字病院
胆膵内科 秋元 悠

当科では岡山赤十字病院本館センター棟2階の内視鏡透視室で胆膵内視鏡処置を行っておりますが、2024年12月中旬より改修工事を行い2025年1月より内視鏡透視室をリニューアル致します。

胆膵内視鏡処置は、関連手技の種類が多く、また手技内容も多岐に渡っており難易度が高く、偶発症の頻度も高いため、より安全・正確に行える必要があります。

その胆膵内視鏡の処置を支えるのは透視装置になりますが、この度、新しい内視鏡透視室ではFUJIFILM社のCUREVISTAの透視装置を導入しました。同透視装置により、医療スタッフの被ばくを低減することはもとより、より高画質でノイズを少なく画像を追うことができ、アームが2方向に動くため、患者様を動かさずに目的とする位置に視野を動かし重なりをとることができます。

内視鏡システムもOLYMPUS社のEVIS X1に変更となり、新しい画像強調内視鏡技術のTXI (Texture and Color Enhancement Imaging) を用いることで乳頭の胆管口と膵管口の同定がしやすくなるとの報告もあり、上記透視装置と合わせて、より安全に精度の高い胆膵内視鏡処置を提供していきたいと考えております。

総胆管結石や閉塞性黄疸など胆膵内視鏡処置を必要とする患者様がおられましたら、是非当院へご紹介ください。



デジタル X 線透視撮影システム
「CUREVISTA Apex (フジフィルム社)」



次世代内視鏡システム
「EVIS-X1 (オリンパス社)」